

入院診療計画書(胃切除術を受ける患者様へ)

ID番号 @PATIENTID 氏名 @PATIENTNAME 様 @PATIENTWARD 病棟 @PATIENTROOM 号室

病名(他に考える病名) 担当医師 @USERNAME 印 担当看護師 担当薬剤師 その他の担当者名 @SYSDATE

月日	術前日 (/)	手術日(/)		術翌日 (/)	術後2日~3日目 (/)	術後4日~6日目 (/)	術後6日目以降退院日
		術前	術後				

経過 検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。 ()時に手術室へ移動します。 術後は病室に戻ります。 水分開始になります。内服が開始になります。 食事が開始になります。4人部屋へ移動します。 安全に日常生活の範囲を拡大していきましょう。 **退院**

目標 手術の必要性を理解できる 手術室へ行くまでの流れ 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。 退院後の生活について疑問点がある場合は、看護師に相談しましょう。

検査 レントゲン 手術からお部屋に戻ったら、3時間ごとに検温します 採血・レントゲン(レントゲンはお部屋でとります) 必要に応じて採血・レントゲン

処置 入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください。 手術前日の流れ

- おへその掃除をします
- 入浴(シャワー)
- 肩に名前を書きます(医師)

手術室へ行くまでの流れ

- 麻酔科医師の指示の内服薬があれば、服用してください
- 前あきの下着、病院のジャマに着替えてください
- 弾性ストッキングをはいてください(看護師が用意します)
- 義歯、めがね、時計、指輪などを外して下さい。
- 貴重品は、ご家族の方へお渡しください
- 女性の方は、化粧やマニキュアを落としてください。
- 髪の長い方は2つに結び、ヘアピンを外してください
- 午後には手術を受ける方は、午前中に病棟で点滴をします

注射 ありません

内服 飲んでいるお薬は、全て看護師にお知らせ下さい。病棟薬剤師もお薬を確認します。

食事 水分は、1日1000mlを目安に補給してください。

清潔行動 活動、入浴に制限はありません。 病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。

説明 病棟での日常生活を説明します。手術の予定や経過について説明します。 麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります。

胃の手術を受けられる方へ スーフル呼吸訓練を行ってください。 胃のはたらき 胃は食物を一時ためる臓器です。食物と胃液を粥状にし、十二指腸へ送り出すポンプの役割を担っています。しかし、手術で胃が小さく、または胃がなくなると、腸や食道に負担がかかりやすくなります。また消化液の分泌も少なくなるので、栄養の吸収も弱まってしまいます。ここでは、手術後の食事摂取のポイントをご紹介します。

必ず禁煙して下さい。

立ちましよう。 初めて歩行する時は、看護師が付き添います。術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。 尿の管と胃の管が抜けます 酸素と心電図モニターが終了になります 立ちましよう。 水分を摂取する場合は、むせりや吐きがないのを確認しながら飲んで下さい 薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。緩下剤の内服については、便の回数や性状を見て調節して下さい。心配なときは医師に相談して下さい。

創部の管が抜けます 痛み止めの管が抜けます

どんどん歩きましょう。

以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。

- 腹痛がひどい時。
- 排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時。
- 嘔吐が続き、吐き気がひどい時。
- 黒い便が出た時。
- 高熱が出たり微熱が何日も続くような時。

わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師にご相談ください。

外来受診について 定期受診は必ず行なうようにしましょう。

次の受診日まで必要な分のお薬が処方されます

職場復帰、旅行などは医師に相談してください

入浴のときは… 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。

便秘になったときは…

- 腹部で「の」の字を描くようにマッサージして下さい。
- 水分を多めにとって下さい。
- 食物繊維の多い食品をとってください。(玄米・豆・芋類・果物・バナナなど)
- お腹のはりは食事の進みにくい原因になります。湯たんぽなどでお腹を温め、腸の動きをよくしましょう。
- 歩行訓練は腸の動きをよくしますので、体調の良い時間を見て廊下歩行に努めましょう。

下痢になったときは…

- 腹部の保温(腹巻き使用)
- 脱水になりやすいので、水分を補給しましょう。
- 温かい消化の良い食べ物を摂取しましょう。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど)
- 以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控えましょう。
- 下痢止めの薬の乱用は慎むよ

食事 水分は、1日1000mlを目安に補給してください。

朝食6時まで水・茶・スポーツ飲料などの水は摂取可能です。コーヒー・牛乳・野菜ジュースなどは飲まないで下さい。

活動、入浴に制限はありません。 病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。

足の底背屈運動を行って下さい。血栓予防になります

シャワー浴ができるまで、体拭きをお手伝いします。

シャワーの時は、きずの部分をごすらずに、シャワーで流すようにしましょう。

入浴のときは… 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。

職場復帰、旅行などは医師に相談してください

入浴のときは… 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。

便秘になったときは…

- 腹部で「の」の字を描くようにマッサージして下さい。
- 水分を多めにとって下さい。
- 食物繊維の多い食品をとってください。(玄米・豆・芋類・果物・バナナなど)
- お腹のはりは食事の進みにくい原因になります。湯たんぽなどでお腹を温め、腸の動きをよくしましょう。
- 歩行訓練は腸の動きをよくしますので、体調の良い時間を見て廊下歩行に努めましょう。

下痢になったときは…

- 腹部の保温(腹巻き使用)
- 脱水になりやすいので、水分を補給しましょう。
- 温かい消化の良い食べ物を摂取しましょう。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど)
- 以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控えましょう。
- 下痢止めの薬の乱用は慎むよ

説明 病棟での日常生活を説明します。手術の予定や経過について説明します。 麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります。

胃の手術を受けられる方へ スーフル呼吸訓練を行ってください。 胃のはたらき 胃は食物を一時ためる臓器です。食物と胃液を粥状にし、十二指腸へ送り出すポンプの役割を担っています。しかし、手術で胃が小さく、または胃がなくなると、腸や食道に負担がかかりやすくなります。また消化液の分泌も少なくなるので、栄養の吸収も弱まってしまいます。ここでは、手術後の食事摂取のポイントをご紹介します。

必ず禁煙して下さい。

食事のとりかた 5分粥から開始します。主食の量は、普通の量の半分から開始します。

- 姿勢
 - ・食るときはベッドを起こすか、椅子に座りましょう。
 - ・食後30分~1時間は消化を助けるため安静が必要です。つかえた感じのあるときは、胃の通過を助けるため右側を下にして横になるか、座って様子をみましょう。
- 食べ方・速さ
 - ・一口ずつ、ゆっくり、良く噛んで食べましょう。
 - ・お粥だけでいっぱいにならないよう、おかずから箸をつけましょう。

間食の工夫 1回の食事量が少ないため、空腹感があるとき(午前10時や午後3時頃)に間食するとよいでしょう。

- 間食してよいもの
 - ・重湯のとき・・・ジュース(炭酸を含まないもの)、乳製品を少しずつ
 - ・3~5分粥・・・プリン、ヨーグルト、卵豆腐、カステラ、ビスケット、バナナ、メロン
 - ・7分粥から・・・果物全般、消化のよいもの
 - ※消化が悪いもの(イカ、タコ、キノコ)

便秘になったときは…

- 腹部で「の」の字を描くようにマッサージして下さい。
- 水分を多めにとって下さい。
- 食物繊維の多い食品をとってください。(玄米・豆・芋類・果物・バナナなど)
- お腹のはりは食事の進みにくい原因になります。湯たんぽなどでお腹を温め、腸の動きをよくしましょう。
- 歩行訓練は腸の動きをよくしますので、体調の良い時間を見て廊下歩行に努めましょう。

下痢になったときは…

- 腹部の保温(腹巻き使用)
- 脱水になりやすいので、水分を補給しましょう。
- 温かい消化の良い食べ物を摂取しましょう。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど)
- 以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控えましょう。
- 下痢止めの薬の乱用は慎むよ

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。
 注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。
 注3) 特別な栄養管理の必要性については、電子カルテ等様式の変更が直ちにできない場合、食事の欄に記載してもよい。

上記内容について説明を受け同意いたしました。 署名: 続柄:

特別な栄養管理の必要性 有 無